

｜ 平成 30 年度 ｜

びわ湖ホール

劇場サポーター活動記録集



滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

BIWAKO HALL CENTER FOR THE PERFORMING ARTS, SHIGA

はじめに

2018年度はびわ湖ホールにとって、メモリアルな1年となりました。

まず、びわ湖ホールは9月5日に開館20周年を迎えることができました。台風の影響により1日前の日程での緊急特別公演とはなりましたが、9月29日には開館20周年記念公演として、マーラー作曲交響曲第8番「千人の交響曲」を開催することができました。台風が迫る中、多くのお客様がびわ湖ホールへ足を運び、ご鑑賞頂けたことに感謝しております。

また、舞台芸術のさらなる質の向上を実現すべく、新国立劇場と連携・協力に関する協定を締結いたしました。自主制作オペラを中心とした、びわ湖ホールの公演が全国的に評価され続けることに寄与するものと確信しております。今後のびわ湖ホールのさらなる飛躍にご期待ください。

そして、自主企画による春の音楽祭としては初の開催となる「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」を成功させることができました。その成功を受けて、この4月に第二回目を開催いたします。

これらは、劇場サポーターの皆様をはじめとする、多くのお客様のご支援があってこそのもので、心より感謝申し上げます。今後もびわ湖ホールを引き続きご支援、ご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

さて、平成31年度は、大・中ホールの舞台機構を中心に大規模な改修工事を8～12月にかけて行います。その期間にご不便をお掛けすることも多いかとは思いますが、びわ湖ホールの今後のさらなる飛躍に必要なものでございますので、何卒ご理解いただければと存じます。工事期間中はロビーコンサート開催の数も増やし、びわ湖ホールの魅力を発信し続けて参ります。

劇場サポーターの皆さまも、サポーター制度の特典や交流会など、様々な機会をフル活用し、上質な舞台芸術の魅力を存分に楽しんでいただきたいと思います。そして、ご家族・ご友人など一人でも多くの方々へその魅力をお伝えいただき、引き続きびわ湖ホールをご支援いただければと幸いに存じます。

平成31年3月

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

館長 山中 隆



目 次

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告	1
平成30年度「びわ湖ホール劇場サポーター」研修の概要	40
平成30年度「びわ湖ホール劇場サポーター」自主活動の概要	42
平成30年度「びわ湖ホール劇場サポーター」運営要綱	44
平成30年度「びわ湖ホール劇場サポーター」の内訳	45

びわ湖ホール劇場サポーター 活動報告

期別（順不同）

文責：びわ湖ホール劇場サポーター

この1年間を振り返り、2

21期 松田純子

サポーターとしての活動を1年と云えば、毎月届く10部のStage、湖響、クラムなど、知人に配る、ほとんどこれだけだった。そんな1年間も続けていると、心待ちに12下る方が居たり、クラムが届く前に自ら調べたチケットを置、下りたり、何より、びわ湖ホールをより身近に感じ下る方が増えたのか、とてもうれしく思います。

残念だったのは、サマーホーテ、かわいコンサートに参加できなかった事です。家庭の事情でタグミンが悪く重なり、(まい、周囲から後日談を聞かされた。事情と言えば、講座、定例会その他トクキヤンがあったり、まあなんと残念な1年だった事か……。

その中でクリスマスホーテは唯一楽しめた事か。

『びわ湖ホール』のサポーターとして、オペラ、クラム、古典、演劇……も、と多く関わっていらっしゃる方が良いため、どうもレクリエーションばかり楽しんでいいる？ 風に思ったりする時があります。私なりの関わり方なので、今後おん(びり)と細く長く、来(2)頑張らず、自分も楽しく続けられたいなあ、と思っています。

2018年度 活動報告

21期サポーター 加納康平

2019.02.24

今年度は、期初に会合の日程の具体化ができていたため、日程の調整が可能となり、殆どの会に出席できたことは、改善の結果として明記したいと思います。

特筆事項として

5月 びわ湖音楽祭におけるボランティア

8月 わいわいコンサートへの出演 (Violin 独奏)

その他、ハルモニアへの投稿。レク担として新規アイデアの検討をしたが、適う企画の実施に至らなかった。

以上

体験を伝える事からできるPR活動

1. はじめに

この1年間、オペラ入門講座を始め各種講座で多くの事を教えていただきありがとうございます。特にサポーターになってこの3年間、ワーグナーオペラのおもしろさ・奥深さを丁寧に教えていただき「オペラ」と言うものに大変興味を持てるようになった。これまで「オペラ」はほとんど鑑賞する事はなかったが、最近は毎年3~4公演楽しく行くようになった。サポーターになったお蔭である。

2. 活動結果

1) PRのための基礎知識の習得

今年も各種講座・イベントに参加させていただいた。特にオペラやバレエについては作品が誕生した地域の特色や時代背景、また作曲家や指揮者の思い、演出家の様々な表現方法など具体的に細かく教えていただいた。

これまでオペラやバレエは鑑賞して、ただ美しい音楽や舞台表現であるなどの範囲の感覚であったが、教わった事を思い浮かべながら舞台を見ると場面場面が良く分かり待ち遠しく、またさらに感動的に鑑賞できる事が分かった。

2) PR活動

私は高校・大学の同窓生、また最近はシルバー大学の卒業生との付き合いが多い。同窓会の近況報告などではびわ湖ホールの特長やイベント情報などを機会あるごとに話してきたが、最近は去年経験したステージツアーの体験談や上記の各種講座で教わった事のポイントなども伝えるようにしている。

特に、自分が「オペラ」に興味を深まり、毎年必ず鑑賞するようになった体験談や講演会概要、サポーター活動などは興味を持って聞いてくれる。やはりパンフレットなど書いたものを伝えるだけではなく、自分が体験し感銘を受けた事を伝えるとより興味を示してくれる事が分かった。

3. 反省点と今後の方針

反省点としては実際びわ湖ホールに来てくれた友人がまだ少ない事である。

次年度は是非多くの友人達と一緒にびわ湖ホールへ来館するイベントを企画したい。一度来館すればびわ湖ホールのすばらしさを体験し継続的な訪問に繋がるものと期待する。

以上



サポーター体験記



21期・奥野ちよみ

びわ湖音楽祭ボランティアに参加

劇場サポーター三年目となった昨年の春も「びわ湖クラシック音楽祭」のボランティアに参加しました。例年、事前にボランティア研修会が行なわれるのですが、昨年は、三日月滋賀県知事が、奥さまと一緒に研修会に参加され、私のすぐ後方の席で、熱心に説明を聞いておられました。

また、ボランティア参加の当日も、大ホールのロビーで、知事ご夫妻と一緒に、チャイルドシートの配布作業やチケットの集計作業に参加しました。

びわ湖ホールの春の音楽祭では、サポーター登録以来、毎年欠かさずボランティアに参加し、他では体験し得ない貴重な経験を積むことができました。

びわ湖ホールをPR

サポーター3年目の今年度を振り返り思えば、これまでに何人かの友人を、びわ湖ホールのコンサートに案内することが出来ました。どの方も、びわ湖ホールに関心があっても、実際にホールに来る機会が無かったということで、ちらしや年間スケジュール表などを手渡し、これぞ一押しのおすすめのコンサートにお誘いすると、とても喜んで参加して頂けます。

昨年は、春の「びわ湖クラシック音楽祭」開催日の5月4日・5日の両日共、友人を案内しコンサートを楽しんできました。特に5日に参加した客船ピアンカの「湖上コンサート」は、素晴らしい晴天となり、「ピアンカ」に初めて乗船した友人も、湖上の風景に大満足の様子でした。

また、他のコンサートでも、独自に観に行ったという連絡も頂き、サポーターとなった3年間を振り返れば、びわ湖ホールのファンを少しだけでも増やすことができたのではないかと思います。

びわ湖ホール関連情報を発信

びわ湖ホールのコンサートに訪れる知人や、ホールに関心を持つ知人のお話を伺うと、ホールやコンサートの上質さと同時に、必ずといって、ホール周辺のびわ湖の風景の素晴らしさを挙げられます。このびわ湖の風景にも古くからの歴史があり、現在、ホールが建つ打出浜やその周辺の地が、古典文学や古典芸能の中に多く登場します。

今年度は、これらの情報を、「らくらく連絡網」や、サポーター通信誌『ハルモニア』への投稿を通じ、コンサート情報だけでなく、びわ湖ホールが建つ地域の歴史として、いくつか紹介してきました。今後も情報提供の機会を設けたいと思っています。

未来のサポーター？

サポーターとして3年が経ち、さらに充実した毎日（大袈裟？）になっているような気がします。近いということもあると思うのですが、自分の性格上何にでも参加したいということで、ますますびわ湖ホールに足繁く通っているような気がします。

今年は、やっと6歳になった孫をシアターメイツに入会させて、「森は生きている」のオペラデビューでした。

「森は生きている」は私が子供の時に両親に連れられて見たとても思い出のあるオペラなのです。何十年も経っているのに、「え～！な、なんと、今びわ湖ホールで見られるの？」と驚きと感激でした。あの歌ははっきりと覚えていて、歌が大好きな孫と一緒に楽しい時間を過ごしました。嬉しいことに孫友もシアターメイツに入会しました。音楽が大好きな孫なので、これからもっともっと一緒に楽しみたいですね。4月の「近江の春、びわ湖クラシック音楽祭」は、勿論孫もそしてママ友、ババ友連れて沢山楽しもうと、ワクワクしています。ボランティアもしますよ。

音楽で満たされたシニアライフ

21期 松林智子

びわ湖ホール劇場サポーター3年目も終りに近づきました。が、まだ終わりません。オペラ講座・古典芸能講座等々有意義な講座を3年間無料で受講させて頂けるという贅沢なサポーター特権の御陰で、難解なワーグナーも理解でき、『びわ湖の指輪（サポーターのk氏が昨年ワルキューレの後、びわ湖の指輪は素晴らしいと世界中の人に伝えたい！と言われたのに同感して）第2日ジークフリート』もわくわく感が高まるばかり。更にびわ湖ホールならではの舞台技術研修～人材育成講座～成果発表公演や子供のための管弦楽教室。ラストは、素晴らしい音楽家の皆さんが私達に、あのエラールピアノとの六日間の別れの時間をプレゼントして下さるといふ。3月30日ロビーは、有難う、お疲れ様の歓声と涙で一杯になることでしょう。

そして又新しい4月、私たちサポーターは近江の春びわ湖クラシック音楽祭のボランティアとして心地よい汗を流し、交流会によるお花見ハイキング、定例会、わいわい！コンサート、ハルモニア通信、逃せない公演も目白押しに・・・これ程音楽、芸術、それを愛する仲間たちに満たされた素晴らしいシニアライフがあるのでしょうか。

♪ 活動した内容

- ① 送付していただいた広報物の配布物を友人や近所のピアノ教室で生徒さんに配っていただき、シアターメイツの制度や公演を知っていただく。

♪ その活動によって得られた成果

保護者の方からもチラシの問い合わせをしてくださる方がいました。
そのチラシをきっかけに一緒に松竹大歌舞伎を鑑賞させていただきました。

♪ 感想・反省点・今後の抱負

今年度は、サポーターとして活動をするのが困難なのは分かっていたのですが、昨年に引き続きシアターメイツの制度を知ってもらうために、息子が習っていたピアノ教室の先生にお願いし、各種公演のチラシとシアターメイツのチラシを生徒さんに配っていただきました。

シアターメイツ対象の公演で静かに鑑賞している小学生の様子に感心します。この制度を知っていたら、息子達といろいろ鑑賞したかったなあと残念に思っているのです、まずは、知ってもらいたいです。

今後もHPを閲覧させていただきます。

どうもありがとうございました。

活動

PR 活動 (stage 配布、口コミ、びわ湖ホールの facebook をフォローなど)

びわ湖クラシック音楽祭のボランティアスタッフ参加

びわ湖ホール主催の講座など受講

オペラ基礎講座、ワーグナー・ゼミナール (上級編) 受講

活動成果

びわ湖ホールの魅力、特にサポーターについて、いろいろな人に話しています。また、びわ湖ホールの公演などを知っていただきました。友の会サポート会員に加入し、オペラなどの公演を鑑賞し、今年度から家族も公演を鑑賞し始めました。

反省点

一年を通して活動にムラがあり、サポーター定例会と交流会への参加ができませんでした。

感想と今後の抱負

サポーター三年目を終えますが、昨年に増して、オペラや声楽の魅力にどんどんはまってます。能や狂言についても興味が増しました。

サポーター始める前はびわ湖ホールは素通りしてましたが、今ではびわ湖ホールは身近な存在になりました。

今後もびわ湖ホールが質の良い公演を提供できるよう、ファンを増やしてサポートしたいと思います。

Many Thanks to びわ湖ホール（びわ湖ホールに感謝して）

木下恭子 第 21 期

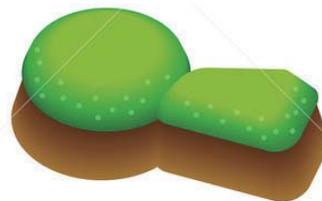
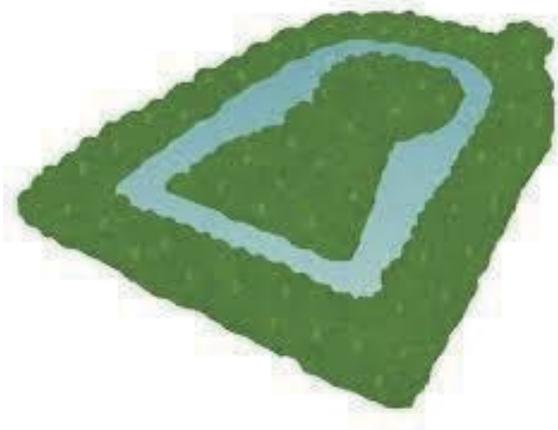
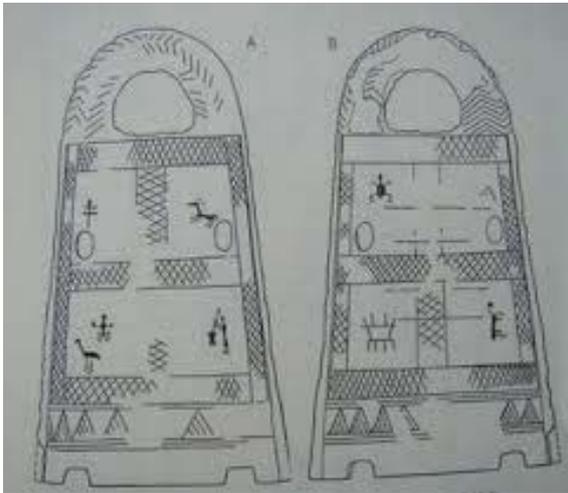
〔びわ湖ホール Stage の配布〕

〔近江の春〕の1日目の午前のボランティア活動

2018年の活動は、仕事が忙しくて、参加できませんでした。

本当に残念です。

前年度、銅鐸の博物館や古墳のイベントに参加できたことが、仕事に役立ち、ありがとうございました。



pixta.jp - 5233395

深まる楽しみ

22期 中村 さつき

サポーター2年目、活動を楽しんでいます。

自身の楽しい気持ちを伝え、巻き込み…、あやかっています。

～ 活動・成果 ～

友人たちが劇場サポーターに仲間入り。

県外の友人たちには、“びわいち”もいいけど“びわ湖ホール”もねと、

ホール内外を案内することで、親しみを感じてもらえたようです。

今年度は年間予定を把握し、昨年以上に公演や活動に参加できました。

～ 反省・今後の抱負 ～

“体調管理”

なにせ公演チケットの発売は早く、早々に購入。急用の心配もさることながら、

自身の体調管理に、特に冬場は気をつかいました。

“セミナー等にも参加”

公演の楽しみは、スケジュールの発表とともに始まります。

公演に向けての各種セミナーやサポーター会の諸々は、私にとって内容理解の

手助け、楽しむためにも逃しては大変。そこでサポーター諸氏が発する伝染性

わくわく感・芸術愛に感染し、公演日を迎えます。お世話になりました。

次年度もよろしくお願ひ致します。とても楽しみです。

【講座】：公演作品に関連する諸講座は、とても役立つ。今年度は、青山登志和氏のトライアングル講座が開催された；西欧のバレエ・オペラ、日本の古典芸能の発展・推移した過程を要領よく話された。ユーモアを交えた特異な話術で、時間を忘れて楽しめた。日欧全般の舞台芸術の基礎知識を平易に記述した資料は大切に保存し、参考にしている。また、上演オペラに関する講座(初級)はできる限り出席しているが、それとは少し趣向の異なる‘ブレトーク・マチネ’がある。前半は専門家によるトーク、後半では声楽家によるオペラのアリアが披露される。観劇への興味と期待を抱かせるアリアを聴くだけでも価値があると思う。

【演出法の相違と印象】：「魔笛」は待ち望んだオペラのひとつ。metライブビューイングで以前、観たことがあり、ファンタスティックな世界にどっぷり浸った経験が忘れられない。が、今回ホールでの公演ではよりモダンで、現代社会の要素(例・スーツを着た男女の集団)とメルヘンの世界が混在し、そこにユーモアも感じられる作品になっている。演出法によって印象が変わるものだと、実感した。初心者の中にはオーソドックスの方が好きだ

【「ドン・ジョバンニ」の総稽古見学】：公演日が迫ったある日、ピアノ伴奏による総稽古を見学する。衣装をつけ、本番さながらの舞台を始めから終わりまで見られるなんてラッキー；ととてもお得な体験で、サポーターでいてよかった。

【サポーター活動】：昨年果たせなかったことをやってみようと、レクリエーション部にはいった。1年間観察していて一番楽しそうだと思えたから。と、いっても、自ら率先して企画・立案する能力も気力も十分でない；‘参加可能な行事だけ参加’という自分勝手な条件で一員にさせて頂いた。夏・冬のパーティー、ワイワイコンサート(観客として)、秋のハイキング・・・あまり話す機会のない会員の方々と会話できて楽しかった。長くサポーター活動を続けていくには、お仲間との会話が不可欠であると思う。

【ロビーコンサート】：週1回浜大津の体操教室に通っているが、たまたま当日午後にロビーコンサートがあることを教室仲間に話すと、「いきたい」、「面白そう」との声が上がり、4人で参加；「びわ湖ホール声楽アンサンブルの日本の歌曲集」が出し物であった。

会場はほぼ高齢者で満杯。立見席も立錐の余地なし。聞こえればよいと覚悟して後ろの方で立っていると、スタッフの方が‘おばあちゃんが立っているのは可哀そう’と同情したのか、喫茶店とロビーを隔てている半円形に連なるソファに導いてくれ、出演者を後ろから見させてもらった。たとえ30分とはいえ、運動で疲れた体にはありがたかった。

これを契機に友人の間にロビコン・フアンの輪が広がっている。クリスマスコンサートでは若いサクソフォン奏者の華麗さに感動し、「すごい、すごい、」を連発したのだった。

Ask what you can do for your country

22期 森 敬一

アメリカ第35代大統領ジョン・F・ケネディのことばです。彼は1963年11月22日に暗殺されました。私は1949年生まれで、私および私の上の世代の人は、この椿事をご記憶でしょう。その娘が先代の駐日アメリカ大使キャロライン・ケネディであることはご存知でしょう。

「あなたが国（＝アメリカ）のために何を成すことができるのか問うて欲しい。」

私はこの country をBiwako Hall に置き換えて考えています。びわ湖ホールのために何ができるのか、何をしているのかと。

サポーターの仲間に加えていただいて、本当に良かったと感謝しています。深い教養と練れたお人柄をお持ちの皆様との交流は、私の老年の楽しみです。人生の引き出しを増やすことができました。公演の鑑賞と同じほどに、サポーター行事に参加し、皆さまにお会いするのが楽しみです。しかし、仲間と楽しい時を過ごす一方で、これでいいのかという思いがあります。

それは、一人でも多くの人にびわ湖ホールの公演を知っていただき、一人でも多くの人にご来館いただくことにあります。そのために、毎月一定部数の公演チラシの送付を受け、各所各人に撒く努力をしています。音楽好きの経営者のいるレストランやお菓子屋に置かせてもらい、妻が合唱をやっているのでも、そちらの方にも配布しています。しかし、レスポンスというか、効果測定は、あまり実績はあがっていないようです。街頭でティッシュ配りのようにチラシを渡しても、クラシック音楽、バレエ、歌舞伎などは、やはり敷居の高いもので、‘縁なき衆生’にいくら説いても、顔をこちらに向かせるのは困難です。少し疲労感を覚えるこのごろです。

「この指と一まれ」

話題を変えます。レクリエーション担当では、Sさんのご発案で、オフィシャルな行事のほか、楽しい行事を思いついたら、日時集合場所を指定して発信して、親睦を深めようということになりました。企画者の負担をうんと軽くして。

「懐かしの名曲喫茶」でのレコード鑑賞では、「まだあの店があったのか!？」という驚きの中で参加しました。五箇荘の古寺での抽象画展もありました。私の企画で、佐川美術館での田中一村展。三橋節子美術館&大津市歴史博物館。

ロビーコンサートのあとで、ビールを飲みに行くというのもどうでしょうか。

「この指と一まれ」はレクリエーション担当の専売特許ではありませんので、サポーターのどなたでも企画・発信してください。

若いころから登山や史跡巡りが好きだったので、私はレク担当の中でハイキング担当に特化しています。今年度のオフィシャル行事としては、春の宇治散策、秋の大山崎山荘美術館とその周辺、冬に伏見の町歩きを企画実施しました。楽しんでいただけたかなと思っています。

多くの人にオペラを鑑賞してもらうために

1. 活動報告・成果

友人が以前、びわ湖ホールでオペラ鑑賞したが内容がよく分からなかったそうです。それを聞いて、オペラをより理解できるよう初級・上級編の講座がある事、またステージツアーがある事などを伝えると次回は行ってみたいと興味を示されました。

「オペラに行きたいが敷居が高くて・・・」と言われたとき、小ホールで年3回程オペラ映画鑑賞会がある事を紹介すると多くの方が関心を持たれ、最近は毎回一緒に行くようになりました。ある人は「オペラ映画を鑑賞する会」に入会したようです。

私の知人にオーケストラの楽団演奏者がいます。びわ湖ホールで知人のオーケストラ演奏会がある事を他の友人達にパンフで知らせると友人達は毎回知人の演奏会に行ってくれるようになりました。

2. 感想

びわこリングのように関係者の方々のいろいろな工夫の成果でオペラファンがふえてきたように思えます。

今回も直ぐにチケットが売れて講座を受講する人も増えました。また私が行くいろいろな演奏会も以前に比べ満席近くになってきました。

私はあるきっかけで能面打ちを始め「能」を鑑賞することになりましたが初めは言葉も内容も全く理解できず眠くなりました。そこで「謡」を習い始めると世阿弥の人生・環境・思想・政治的背景などに触れ、また源氏物語、平家物語などにも興味を持つようになり少しずつですが「能」の面白さが分かってきたように思えます。

西洋のオペラと日本の古典「能」を比べますと、オペラは豪華な衣装、舞台装置、多くの役者、広い空間が必要です。一方、「能」は伝統的な芸術衣装。最小限の舞台道具、少ない役者（能面を付けることでどんな役者にもなれる。）、狭い空間で静かな少ない動きで表現する事ができます。「能」は其中で鑑賞する人々に想像力を活かせる効果があります。オペラと「能」は表現方法は違っていますが「能」は日本のオペラとして人に感銘を与える点で共通しています。

3. 抱負

日本では駅構内に旅行のポスターは多く見られますが音楽会のポスターはほとんどありません。海外のように駅構内・周辺にもあると良いと思います。

大津市近郊だけではなく他にパンフを配って環境にも恵まれたホールである事をアピールしたいです。

以上

♪ サポーター 2年目を終えて ♪

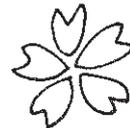
22期

倉畑有里

♪ ハルモニオの表紙として、
オペラ「蝶々夫人」の切り絵
作品を作りました。

♪ わいわいコンサートにピアノソロで出演
させていただきました。小ホールステージに
立てに貴重な経験でした。実行委員の
みなさま、応援してくださったみなさま、
ありがとうございました。

♪ びわ湖ホールから届くパンフレットを地元音楽仲間
に配り、コンサートやセミナーにも参加しました。
びわ湖クラシック音楽祭、指揮者セミナー など。
現在、土日が仕事のため活動に制限がありますが、
今後もしできることを楽しんで取り組んでいきたいです。



今年度は、広報物を 10 部送っていただきました。自宅マンションの管理人室の前に、管理人さんの許可を得て置いています。最初は、すぐになくなってしまっていたのですが、近頃は少し残ってしまいます。置き方に工夫がいるのかと思っています。

基礎講座、特別講座、オペラ・バレエ・古典芸能～初心者向け・トライアングル講座に出席しました。

びわ湖クラシック音楽祭のボランティアスタッフをしたことは、観るだけではない、びわ湖ホールを体験できました。

劇場サポーターとしての活動報告

22期 西山洋介

1. どのような活動をしたか

昨年に引き続きオペラ、歌舞伎、講座、びわ湖ホール声楽アンサンブル、演劇、ジルベスターコンサートなど友の会の特典も利用し、可能な限り鑑賞或いは学習させていただき、月7~8回はびわ湖ホールにお世話になりました。

2. 活動の成果

知人に都度オペラのすばらしさなど伝えてはいるが、今期は、まだびわ湖ホールまで足を運んでくれた知人は数名に過ぎず来期はもっと紹介する範囲をひろげ勧誘したい。

3. 感想

様々に開催される講座は、鑑賞、観劇などにあたり実践も含め様々な角度から事前に未知の世界を知り、本番を楽しむのに大いに役立つとともに、知人へ紹介するにあたって門外漢の私でも、その楽しさを伝えることができる素晴らしい講座だと感じる。ワーグナーのオペラなどは、作品のすばらしさの反面、自習で、反ユダヤ主義などがヒトラーにもたらした闇の部分も知ることになり作品と人格のギャップなど色々と考えさせられる。またジークフリートなど素晴らしいオペラが完売となることは非常に喜ばしいことではあるが、それでも黒字ではないと知り、芸術をビジネスにのせるむつかしさを感じている。びわ湖ホールが今後も安泰であるためには、何が必要か非力ながら考えていきたい。

4. 反省点

今期も、例会などには、3回出席にのみであった。サポーターの皆さんのオペラに対する知識は、観賞する上で非常に参考となっており、来期は出席をふやしたい。

5. 今後の抱負

びわ湖ホールに一人でも多く足を運んでももらえるよう色々な機会を通じ私設応援団として引き続き活動していく。

一年間ありがとうございました。

2年目となる2018年度は、個人的な事情で多忙となり、なかなかサポーターの活動や講座に参加ができずになりました。

来年度は、もう少し時間のやりくりをうまく行い活動に参加できるように工夫をしたいと思います。

「PR活動」といたしましては、毎月3～4部は友人に直接お渡し、6部ほどは職場のチャシラックに設置させていただきました。

私の直接の活動ではないのですが、息子が大学の英語のスピーチにて

「滋賀にはびわ湖ホールという世界に誇れる劇場があり、25歳以下であれば一流のオペラが2,000円で観れると、なんと素晴らしいものが身近にある。これを楽しまない手はない」といった様な事を力説したと語っておりました。

ワルキューレを鑑賞してからすっかりとびわ湖ホールの魅力に取りつかれているようです。←チケットをプレゼントした、これが私の今年度の一番の成果かもしれません。

びわ湖ホールサポーターとしての2年目が過ぎました。サポーターとしてこの一年間を振り返ってみると、

1 肯定できることとして、

春、「近江の春」びわ湖クラシック音楽祭のボランティアとして、これまで、客席から楽しませてもらう側にいましたが、ホール側の一員として公演運営のお手伝いをさせていただき、これまでとは違う経験をすることができました。

6月にはバーリ歌劇場の「イル トロヴァトーレ」を公演を見ることができました。とても素晴らしく、特にフランチェスコ・メーリの歌唱は目（耳）を見張るものがありました。是非とも誘った方からも、「観に来てよかった。」といってもらい、いづらかでも舞台芸術の素晴らしさを伝えることができたように思います。

また、7月のトスカの第1幕「テ・デウム」の絢爛豪華な舞台の素晴らしさも忘れることができません。

2 全体的に振り返ると

多くのサポーターの方が色々な企画や活動に参加されていますが、そちらの方には、これまでなかなか参加することもできず、心苦しく思っているところです。それでも、これからは微力でも活動を続けていこうと思っているところですので、よろしくをお願いします。

劇場サポーター活動報告

「チャレンジと交流の機会を得て」

平成31年3月2日
第22期 野村 稔

○活動の内容

- ☆未熟な知識を少しでも深めそして興味が高まるようにと本年度も劇場サポーター研修講座や公演関連講座、稽古見学会を積極的に受講しました。
- ☆チラシ等の配布や事業所にチラシを置いていただくなどしてびわ湖ホールで開催する公演情報をPRしました。
- ☆劇場サポーター交流会の定例会グループとサポーターズ・サロングループのメンバーとして会議や打合せに可能な限り出席し、定例会やサポーターズ・サロンの活動にも積極的に参加しました。
- ☆舞台芸術への興味の範囲が狭く知識もなかったが、びわ湖ホールで開催される公演に興味や関心を持つようにしました。
- ☆友人知人やグループ・団体の仲間にびわ湖ホールの劇場サポーター制度や活動について説明をしました。

○成 果

舞台芸術の関心や興味の範囲が薄くて狭く知識もないままびわ湖ホール劇場サポーターになりましたが、グループのメンバーとして活動や参加をし、研修講座や公演関連講座等も受講するようになってからは、びわ湖ホールで開催された公演を何作か鑑賞するようになり、グループや団体の仲間、友人知人に「劇場サポーターになって活動している」と、躊躇しながらも話せるようになりました。

また、サポーター交流会のグループメンバーとして活動し参加することにより、新たな出会いや交流がありました。

○感 想

びわ湖ホールと劇場サポーター（特にサポーター交流会）が協働し、お互いに課題と問題意識を共有しあいながら活動し、問題解決をしていく体制や規程・会則があれば良いなど感じました。

そのためか劇場サポーターの顔や組織の全体像がまだまだ見えにくいように思えました。

また、素晴らしい人材が加入されているサポーターの方々一人でも多く、活動や事業に継続して参画してもらえるような工夫と理解がもう少し必要なのではと思いました。

○今後の抱負

私は、自身の大事な節目の一つを迎えたときに創造性をもって「楽しく自由に生きる」ことを一つの目標にしていました。そのような想いもあって、身近な存在で親しみのあるびわ湖ホールの劇場サポーターに昨年度チャレンジしました。

本年度下半期の数か月は病気治療のため思うように活動や参加ができませんでしたが、「好きこそものの上手なれ」とはいかないけれど、これからも「下手の横好き」としてびわ湖ホール、サポーターや交流会の方々と共に「想い」を通わせ、協働できる人間関係を紡ぎながら、自分が感じたことを他の人々に理解してもらえるような言葉で伝えられるようになりたいと思います。

いまだに知識がなく関心や興味も低いままですが、「継続は力なり」、役に立たないかもしれないかもしれませんがこれからもサポーターとして活動を楽しんでいきたいと思っています。

びわこホールとの出会い

米山 美津子（23期）

サポーターになって1年が経とうとしています。思えば、1年前にびわこホールでサポーターらしき服を着ている方を見かけたのがきっかけです。このような活動があるのだということを知り、興味を持ち始めました。

大阪に住んでいたため、遠くて少し無理かなと思っていたのですが、子供が近所に引っ越してきたこともあり拠点を持つことができたので、一度やってみようかと思い立ち応募しました。

実際サポーターになってみると、送られてくる送付物を見るたびに、思っていた以上に大変であると同時に、責任ある活動に参加したのだなあと、気づかされることがたくさんありました。また大阪でも様々な活動をしていたため、2か所の活動の両立ができるのかと悩んだこともありました。

びわこサポーターになってよかったと思うことは、音楽や芸術という共通のものを持ちながらも、自分とは違った考えを持つ方々にたくさん出会えたということです。

2018年の近江の春ではチケットのもぎりをお手伝いしました。勉強会に参加して、歴史散歩や季刊誌を発行されたり、芸術や文化に関することにそれぞれがそれぞれの考えで携わられていることを知り、頭の下がる思いです。

何期にもわたってサポーターを長く続けられるということは、その活動に価値があり、なくてはならない存在だということだと思います。

以前からやっていた活動も引き続き行うので、バランスを取りながら両立できればと思います。

びわ湖ホール劇場サポーター活動報告

23期 安本昌憲

1. 1年間の活動報告

① 舞台芸術愛好の輪を広げる活動

定例会等に参加し、舞台芸術やびわ湖ホールに対する愛着を多くのサポーターが持っていることを感じました。サポーター通信「ハルモニア」では、自己紹介文を掲載しました。また、レクリエーション活動では、ハイキング、クリスマス会等に参加しました。様々な活動に参加すると、話す機会があり少し輪を広げられたように思います。

② びわ湖ホールの魅力を広める活動

コミュニティの仲間に、機会があれば、とてもいい施設でよい公演があることを話しました。また、広報については、自宅マンションとスポーツジムにパンフレット等を配布しました。

③ びわ湖ホールや舞台芸術について学ぶ活動

時間の都合のつく時は、オペラ制作等や公演関連の講座を受講しました。今まで関心がなかった私には、舞台芸術の知識と関心を深めるには充分でした。

④ ボランティア活動に参加する活動

サポーターに申し込んだ目的が、ボランティアに参加することでしたが、日程の都合によりできませんでした。

2. 感想

舞台芸術について多くを学ばせてもらえただけでなく、人との交流もできて、1年間とても楽しかったです。また、公演について、事前に学ばせてもらっていたので、以前と比べて、見え方・感じ方が変わりました。

3. 今後について

オペラやオーケストラなどについて、皆さんに教えてもらいながら、マイペースで、できる貢献を続けたいと思います。

劇場サポーターとしての初年度はそれこそあつという間の一年でした。前半は、時間的にも余裕があったことから、期待感と適度な緊張感で各種の講座やサポーターの集まりなどにかかなりの割合で参加させていただきましたが、仕事を始めることになりました後半は、妙に日程が重なったりして、残念ながらやや減速せざるを得ないことになりました。

以下、簡単ではありますが、サポーターとしての初年度を振り返ってみることにします。

1) 広報・PR活動

生活環境の変化とともに活動範囲が小さくなっていましたので、当初考えていたようにはなかなかいかず、定期的には知り合いの病院に資料を置いていただく程度となりました。一方で、いつもバッグの中に最新の stage などを入れておき、会合など集まりや知人に会う時など折あるごとPRすることはできたのでは、と思っております。そのこともあってか、私自身が行くことにした公演ではそのほとんどで、だれかをお誘いし喜んでいただくことができました。これからも地道に続けていきたいと思っております。

2. 講座・セミナーの受講

ホール職員の方よりご案内いただきました専門家による基礎講座・特別講座そして入門講座では、初歩的なことはもとより、演出・舞台の裏側のことなど普段なかなか聞くことができないような興味深いお話・充実した内容で、満足というより何かたいへん特をしたような気持ちです。特にバレエは苦手というか関心が薄く今まで敬遠していた私でしたが、一度チャレンジしてみようと思うようになりました。

そして、オペラについては、本公演を前にプレトークや講座・セミナーそしてワークショップなどにより、理解も深まり高まる期待とともに本番公演を迎えることができ、これこそほかのホールではありえないびわ湖ホール『ならでは』のことだと実感しました。

3. サポーター交流

オリエンテーションで人手不足とうかがい少しはお役にたてればと思い、ハルモニアのグループに入れていただきました。何もわからず参加しましたが先輩諸氏に親切にしてください、また原稿の依頼においても皆さんにご協力いただき感謝しております。

定例会はじめ交流会では、それまで知らなかったびわ湖ホールの魅力・すばらしさをすこしずつ知ることができました。またサポーターが講師のお話では、その博学振りや熱意には舌を巻くと同時にたいへん刺激を受けました。(ハイキングに参加できずたいへん残念でした)

この1年振りかえってみて、びわ湖ホールやオペラをはじめとした舞台芸術について、私の知るところは確実に深まり増えたこと、そしてびわ湖ホールがより身近な存在となったことを実感しております。甚だ微力ではありますが、今後のPR活動に生かしていき、たとえ少しでもびわ湖ホールファンの拡大に貢献できればと思っております。

2018年度 びわこホール劇場サポーター活動報告

第23期 末 淳子

2018年2月サポーター説明会参加、4月のオリエンテーリングを経て、劇場サポーターとしての活動を開始しました。自己紹介号のハルモニア原稿投稿、春のびわ湖クラシック音楽祭ボランティア（大ホール受付担当1コマ）を行いました。

またよくわからぬままに定例会担当となったのですが、9月に講師を担当、【映画「アマデウス」の中の三大オペラ】と言う演題でお話いたしました。昨年度は映画上映を含めモーツァルト三大オペラがすべてびわ湖ホールで公演されたので、まったくの創作で史実ではないアマデウスではありますが、ちょっと違った視点での鑑賞の一助になったのではと思っております。

ただ後日のアンケートで後ろの席まで声が届きにくかったとの指摘があり、今年度予定の「トゥーランドット」鑑賞のための定例会ではその点を改善したいと思います。

また私は自他とも認めるアンチ・ワグネリアンのヴェルディ大好きなのですが（ブラームスはもっと好き）、せっかく地元でのリング全曲公演（もちろんラインの黄金・ヴァルキューレは観劇）なので少しでも楽しく感情移入できればと、新サポーター特権の無料で聴講できるジークフリート関連講座はすべて聴講いたしました。それでもやっぱりヴォータン&ジークフリートに心から共感できるようにはなりません。なぜジークフリートが英雄なのかはいまだ消化不良、さらに今クール最終講座での恐れを知らぬ彼が全人類の運命を担うことになった説はもう完全に理解不能でした。黄昏（終末）なのはヴォータン系の神々だけなのでは？来年まで保留の課題です。

それでも幅広く深い勉強ができるサポーター特権はうれしいですね。

私自身ずっと声楽の勉強を続けていることもあり、今年はワイワイコンサートに演奏者および運営委員として参加いたします。思っていた以上に本格的で、お金も動くということにちょっと驚きました。しっかりさらいこんで良い演奏・コンサートにできればと思っています。

毎月送付される広報物（Stage）は、地元の公民館に置いてもらっているのですが、取り換えの時にチェックすると残念ながらあまり関心をいただけていないようです。もう少し積極的に情報発信できればとおもうのですが、難しいですね。比較的価格が安く時間も短いびわ湖クラシック音楽祭は、普段劇場の敷居が高い方たちへのアプローチに最適だと思いますので、しっかり広報したいと思います。

びわ湖ホール劇場サポーター第23期活動報告

第23期 相田一雄

1. 第23期における活動内容

⇒チラシ配布を中心にびわ湖ホール自主公演の広報と来場誘引を行いました。

- 1) 地元滋賀と大阪で合唱活動を行っている私は、滋賀・大阪・京都・兵庫さらに名古屋地区に居住の合唱仲間にびわ湖ホール自主制作の演奏会・舞台について
 - ①ホール側から自宅に送ってもらっているチラシ等を練習場で私なりのコメントをして配布、また会合で話題にして配布、個人宛郵送を行った。
 - ②私が鑑賞したステージ感想を練習場で発表したり、合唱仲間にメールにて感想文と今後のおすすめ公演を配信した。
- 2) 60数名の地元男声合唱団ではチラシを、私の広報トークのあとテーブルに並べたところ、多くの人がチラシを覗き込んでくれたが持ち帰った人は10名程度で、大阪の合唱団では2・3名程度という状況が続いている。音楽をしている人達なので相当興味を持ってチラシを持ち帰り、チケット購入してくれるかなと思っていたが予想外で驚いた。話を聞くと、公演に興味はあるが、公演日が練習日と重なっていたり、他の合唱団の演奏会とぶつかっていて、自分達の演奏会のチケットを買ってもらう手前、友人たちの演奏会に出向くことを優先したり、さらに年金生活者や高校・大学生を持つ者が多く自分の財布が自由になりにくくて「鑑賞したいが残念」「チラシを持つとどうしても行きたくなるのでチラシはいらない」という連中が多い。(年齢層は55歳から80歳の男性達)中には、開業医の方は私の話(昨年のワルキューレの舞台)を聞いて、「ドン・ジョバンニ」「魔笛」「フィガロの結婚」などに、また「森は生きている」は数名の仲間がホールに出向いてくれた。

2. 今後の抱負

- 1) 音楽仲間への練習場などでのコメント付広報とチラシ配布は続けたい。継続的に耳と目に届けることにより、嫌いでなければきっと行ってみようという日がくると私は信じている。
- 2) 今年は、「ちょっとした音楽情報」なる私的定期メルマガを友人たちに配信してみようかと現在準備中。私の演奏会感想、TV音楽番組やクラシックCD情報、びわ湖ホール公演情報などを織り込んだものを発信してみたい。
- 3) オペラは高料金、という概念を取り払ってもらうために、びわ湖ホールで気軽に鑑賞してもらえる「オペラへの招待」「オペラセレクション」公演や「近江の春」、ホール声楽アンサンブルによる「合唱劇」などへの誘導を強化してみようと思います。
- 4) 世間には1公演1万数千円の舞台の追っかけをしている劇団四季追っかけ族、宝塚歌劇おっかけ族、東宝ミュージカル追っかけ族等が存在しており(ほとんどが女性)、今年は知合いの京都地区女声合唱団団員などへのアプローチもしてみたい。

以 上

私がオペラを観るように！（活動報告1年目）23期 老邑智子

お友達に誘われて、サポーターに。講座やハイキングがあると聞いていたので、年間スケジュールがわかるまでは、できるだけ予定をいれないようにしました。

まず、友の会に入会しました。

招待券もあるし、ゲネプロもみることができる、サポート会員にしました。

招待券は、前期はジャズ、後期は名曲コンサートをいただきました。

ゲネプロは、ドンジョバンニとジークリフトを観ました。

サポーター交流会では、定例会グループに入れていただきました。第1回から第6回まで、すべて出席し、受付やお茶係をしました。定例会の事前の打ち合わせにも出席して、企画の仲間に入れていただきました。第5回は新人の3人で担当しましたが、先輩がアドバイザーとしてついてくださり心強かったです。

サポーターズサロンにも参加しました。公演の見所を聞ける時や、自分の感じたことを話せる時があり、びわ湖ホールが身近に感じられるようになったと思います。

ハルモニアは、自己紹介号は提出しましたが、他の号は、皆さんの見識深いお話しをすごいなと思いながら読ませていただいています。製本時に、一度参加し楽しかったです。

レクレーションは、ハイキングにたくさん参加しました。宇治、三上山、三橋節子美術館、伏見に解説つきで連れっけていただき、京都の音楽喫茶で優雅なひとときをご一緒させていただきました。

基礎講座、特別講座、オペラ講座「ジークリフト」（初級編）、ワーグナー・ゼミナール（上級編）とたくさん勉強させていただきました。

広報活動のチラシ配布は、近所の同じ方々に1年を通じて配布させていただきました。

勉強会や講座に参加していると、オペラを観てみようかしらという気持ちになり、主人と今年はモーツアルトの三大オペラを観ました。フィガロの結婚はシネマオペラも観ました。3月2日のジークリフトも楽しみです。

他にも、近江の春で演奏を聴くだけでなく、ボランティアにも参加。

お話しを聞いていいなあと思い、まるっとステージツアーに参加したり、ミュージカル「オズの魔法使い」を観る予定になったり、世界が広がったように感じています。

オペラって敷居が高いと思っていたのに、気が付いたらこんなに観に行っているとは、驚きです。

この1年、びわ湖ホールに足を運ぶことが多くなり、講座や交流会で、たくさん勉強させていただいたり、いろんなお話しをうかがって、心豊かな1年を過ごせたと思います。

ありがとうございました。

- ・PR活動
- ・「近江の春」ボランティアスタッフ参加
- ・オペラ「ジークフリート」講座{初級・上級}受講
- ・びわ湖ホール主催の基礎講座の受講
- ・サポーター交流会の定例会グループに参加

*あっという間の一年でした。びわ湖ホールに何度も通い、今まで観なかった歌舞伎や狂言、オペラなどに足を運びました。やはり少しでもその事を学習すると興味が沸き観てみようと思うようになる！知ることが大切と思いました。

しかし、びわ湖ホールからの毎月郵送されるチラシが、思うように配布できなかった事が反省点です。

次の一年も、びわ湖ホールに何度もお邪魔したいと思います。

音楽に関してほとんど無知の私が、びわ湖ホールの建物に魅せられて、サポーターの申し込みをしました。
入ってみると、場違い感がズッシリ。
同期の方たちは音楽に憧憬の厚い人達ばかり！？

配布物は頑張ろうと、40部お願いして、友人たちに配っています。
これを通じて、友人の一人がオペラ好きとわかり、以後一緒に、講座を聞いてから、本番を観賞しています。
ヴァイオリン、歌舞伎の問い合わせ、友の会へ入会など、数人の成果はみられました。

でも、クラシックの敷居が高いのか、それ以上の広がりが見出せないです。

配布するだけでなく、金額的に優しいロビーコンサートや近江の春をお誘いして、足を運んでいただいて、クラシックの良さを味わっていただければと思っています。
それ以上にもっと有効な手立てはないかなって模索中です。

私個人は、この一年サポーターになったおかげで、音楽を聴くことに目覚め、講座やゼミで前もっての知識をえることで、数倍楽しめ、オペラにはまってしまいました。
ありがとうございました。

青木加恵子

劇場サポーター一年目を振り返って

23期 服部 由美子

劇場サポーターの一員になって一年が過ぎました。昨年の今頃は「オペラ」についての知識は殆どなく、ただ「観たい！聴きたい！知りたい！」という気持ちだけでサポーターに応募させていただきました。

サポーター体験会で先輩サポーターに「ワルキューレ」についてレクチャーしていただき、興味を持ってすぐさまチケットを入手しました。

いきなりワーグナーは無謀かと思いましたが長時間楽しく鑑賞出来たのはこの体験会のお蔭です。

それ以来、オペラ鑑賞の前には必ず講演会や学習会に参加させていただいています。

オペラ以外にも充実した企画を提供してくださるホールの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

今はもっと「観たい！聴きたい！知りたい！」という気持ちが膨んでいます。

サポーターとしては、定例会の一員として活動させていただきました。

オペラやクラシック、舞台芸術を愛する皆さんのお話はとても刺激になります。レクレーションにも参加させていただき、先輩サポーターの皆さん、同期の皆さんに親切にさせていただいて、本当に充実した一年でした。

滋賀県に「びわ湖ホール」があることをもっと多くの人に誇りに思っていて欲しいと思います。その為に何が出来るでしょうか。

もっともっと知識を増やし、もっともっと楽しんで、この気持ちを一人でも多くの人に広めていきたいと思っています。

びわ湖ホール劇場サポーター 活動報告
第23期 梅本顕宏

今年度が初めての劇場サポーターとしての活動であり、あっという間の一年だった印象があります。

今年度の活動状況は以下のとおりです。

平成30年

5月4日、5日 びわ湖クラシック音楽祭2018年

5月26日 基礎講座、サポーターズサロン

6月3日 定例会

6月10日 トライアングル講座

6月30日 「イル・トロヴァトーレ」

7月8日 サポーターズサロン懇親会（正式名称と違いますが、ご容赦ください。）

9月29日 千人の交響曲

10月13日 基礎講座

11月4日 山中千尋ジャズコンサート（正式名称と違いますが、ご容赦ください。）

12月16日 びわ湖ホールクリスマスパーティー

12月22日 オペラ講座

平成31年

1月13日 基礎講座

3月2日 「ジークフリート」

3月10日 サポーターズサロン

こうして見ると、様々な活動ができたと思うし、どんなことがあったかなと思っただけでワクワクします。

来年度はもっと鑑賞のレベルを上げたいし、わいわいコンサートのスタッフもするので、そこからもいろんなことを学んでいきたいです。

簡単ではありますが、以上ご報告します。

サ	ポ	一	タ	一	活	動	報	告			23	期		樋	口	健	一			
入	会	:	既	会	員	さ	ん	か	ら	勸	め	ら	れ	て	決	め	ま	し	た	
活	動	:	説	明	会	に	出	席	し	て	入	会	。	オ	リ	エ	ン	テ		
一	シ	ョ	ン	を	経	て	サ	ロ	ン	グ	ル	一	プ	に	参	加	。	「	近	
江	の	春	音	楽	祭	」	2	公	演	鑑	賞	。	基	礎	講	座	(初	田	
デ	ィ	レ	ク	タ	一	・	舞	台	監	督)	、	初	心	者	ト	ラ	イ	ア	
ン	グ	ル	講	座	2	回	受	講	。	特	別	講	座	「	上	原	元	館	長	」
「	ワ	ー	グ	ナ	ー	ゼ	ミ	ナ	ー	ル	」	1	回	受	講	。	公	演	鑑	
賞	は	「	ト	ス	カ	」	「	わ	い	わ	い	コ	ン	サ	ー	ト	」	「	山	
中	千	尋	ト	リ	オ	」	「	び	わ	湖	ア	ー	ト	フ	ェ	ス	テ	ィ	バ	
ル	」		P	R	活	動	:	こ	れ	ま	で	1	0	年	間	の	中	心	市	
街	地	再	活	性	化	ボ	ラ	ン	テ	ィ	ア	活	動	で	培	っ	て	き	た	
人	脈	を	利	用	し	て	、	完	売	が	難	し	そ	う		と	耳	に	し	
た	公	演	を	主	に	地	元	と	近	隣	の	5	都	市	の	「	び	わ	湖	
ホ	ー	ル	の	チ	ケ	ツ	ト	を	購	入	可	能	な	」	音	楽	フ	ァ	ン	
が	集	う	施	設	・	店	舗	と	コ	ミ	ュ	ニ	テ	ィ	F	M	局	に	協	
力	し	て	も	ら	い	広	報	宣	伝	に	努	力	し	ま	し	た	。		今	
後	は	更	に	学	習	・	経	験	を	積	ん	で	、	皆	さ	ん	と	共	に	、
更	に	こ	の	ホ	ー	ル	の	認	知	度	や	高	評	価	に	貢	献	で	き	
る	よ	う	に	努	力	し	て	い	こ	う	と	思	っ	て	い	ま	す	。		

「サポーターになって」

23期 大石文代

一年間、ありがとうございました。サポーターになる前は、びわ湖ホールの観客としてだけの私でしたが、サポーターに参加させて頂いてからは、びわ湖ホールの発展を願いながら足を運んでおりました。

《活動と成果》

- ・舞台観賞後に、友人と感想や意見交換し、有意義な時を過ごさせて頂きました。
- ・遠方のオペラファンの友人に、パンフレットを郵送し、喜んでいただきました。
- ・普段あまり会えない友人と音楽鑑賞し、交友が深まりました。
- ・「近江の春」に、親戚も誘いました。親戚の方や親子三代(老若男女)楽しませて頂きました。
- ・「わい コン」出演させて頂き貴重な体験ができ、感謝しております。聴きに来て下さった方々に喜んでいただき、びわ湖ホールの素晴らしさを知って頂ける機会になりました。

《反省》

残念ながら、定例会やレクリエーションにあまり参加できませんでした。

《抱負》

びわ湖ホールでの舞台芸術観賞で、心豊かになれる喜びを、一人でも多くの方々に感じていただけますよう、呼びかけたいと思っております。

◎オペラを作る大変さを学ぶ（基礎・特別講座に参加して）

ずいぶん前になりますが、劇場で初めてオペラを見たとき、オーケストラ、歌手、合唱、それらが合わさったときの音のすごさに、オペラってすごいと素人ながら驚いたものです。

今回、講座に参加し、たくさんのスタッフがアイデアや時間をかけて一つの公演が作り出されていることがよく分かりました。サポーターに参加した目的の一つに舞台がどのように作られているか知りたいことでした。オペラはとてもチケット代が高いという思いがありますが、作られていく過程を知ることです少しは納得できました。

大ホールでのプロジェクションマッピング、大迫力ですね。多くの人に見てもらいたいものです。12月まで勤めていた職場でも、まだまだ、びわ湖ホールでの演目について知っている人は少なかったです。パンフレットと共に新しい取り組みも身近な人に少しずつ宣伝しながら広めることを続けていきたいです。

◎身近なホールに

素敵なオペラの宣伝をしたいのだけれど、悩んでいる間に手ごろなチケットは売り切れて、お値段のいいところしか残っていないことが多いです。そのために、あまり人に勧められませんか。今の悩みです。中ホールで行われるオペラへの招待などをきっかけに好きになってもらえるといいなと思っています。（「森は生きている」とても好きです。親しみのあるものをこれからも公演に入れていってください。）

近江の春のコンサートなど、いろいろな年齢層の方が見えていたのが印象的でした。気軽に行けるといいなと思います。知り合いの方が、1月に行われた「びわ湖ホール4大テノール」のみなさんの公演をととても喜んでおられました。パンフレットを楽しんで見てもらえるようになりました。

◎好きなものを増やしていく

劇場の音が降ってくるのが大好きです。講師の方やサポーターさんのいろいろな話を聞かせてもらうことで初めて知ったことが増えました。音楽だけでなく、美術館や博物館のお話も聞かせてもらうことができました。これからも、いろいろな好きなものを増やして楽しんでいきたいです。佐川美術館での田中一村さんの展覧会よかったです。近くで行われていても行かないことが多いのですが、きっかけをもらいよかったです。

■広める

私自身が自治会長をしています自治会内全 9 世帯に、びわ湖ホールで主催する公演の情報等を毎月 1 回広報・回覧と一緒にチラシ配布しています。加えて、2019 年1月からは、私自身が所属しています地元の観光ボランティアガイドの団体等で月例の会議時に40部ほどチラシ配布を始めました。その他、フェイスブックでびわ湖ホールからの情報を「友達」に知らせています。これからも、びわ湖ホールの素晴らしさを多くの方に知っていただけるよう「広める」活動を進めたいと思います。

■作る

劇場サポーター通信「ハルモニア」に 2018 年の大晦日に初めて出演しました「びわ湖ホールジルヴェスター・コンサート 2018-2019」の感想を寄稿しました。これからも、機会があれば同通信に寄稿したいと思います。また、サポーターで作るサポーター交流会にも、参加できるときはできるだけ参加させていただきました。今後は、私ができる観光ガイドや趣味のオペラ・映画鑑賞などで、サポーターの仲間が楽しめるサポーター交流会の企画を作ることもできれば幸いです。

■学ぶ

「初心者向け・トライアングル講座オペラ編」を受講し、オペラの楽しみ方、観賞のしかたを学びました。「古典芸能編」でも、能楽の歴史や狂言のシテ方やワキ方、狂言方、囃子方などの基礎を学びました。地元が舞台の狂言の面白さも学びました。結局、年度内でびわ湖ホールで公演のほとんどのオペラを鑑賞しましたが、それに先立ちそれぞれのトークマチネやオペラ講座を受講し、観賞するオペラの作曲の背景、過去の演出の違い、サビの曲など興味に尽きず、気分が高揚したまま本番の公演に臨むことができました。「まるっとステージツアー」では、初めてびわ湖ホールの舞台に立ったり、劇場の裏側、照明、音響、楽屋などを見せていただいたりで大感激でした。びわ湖ホールの設備の素晴らしさを改めて知ることができました。大晦日の「びわ湖ホールジルヴェスター・コンサート 2018-2019」の合唱団にも初めて入団させていただき、発声から合唱まで学ばせていただきました。満喫です。

■参加する

5月のゴールデンウィーク中に一度だけ「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」の受付ボランティアをし、公演運営のお手伝いに初めて参加しました。ロビーでコンサート開始前に小さな子どもさんに座席クッションを渡し、コンサート終了後にそのクッションやアンケートを回収する役割です。背が高くなくても幼いとは限らず、中にはお奨めしても、拒否をする子どもさんもいて、見かけだけで判断してはいけません。やんわりとお声がけをしました。遠目でお客様が入场される所から見て、特に兄弟や姉妹がいらっしゃればその数分も手に抱えて、速やかにお持ちします。お子さんと親御さんがニコニコとして受け取ってくださったり、お渡しいただいたりするとうれしいものです。今までは、このようなサービスを受ける側だったので、初めての貴重な経験でした。お客様が気持ちよくびわ湖ホールで過ごすことができ、私と同じようにびわ湖ホールが好きになるよう、これからもささやかですが、小さなおもてなしを心掛けたいと思います。



活動報告

日々是好日

膝を痛めたのと家事都合で、サポーターとは名ばかり、琵琶湖ホールに通う日はちっとも増えていません。会合と基礎講座 2 回ずつくらいですかね。バレエの講座に行きたかった。遠足などのご案内も日程が合わず、でも X マス会はちゃっかり参加、楽しかったです。メンバーの方々の投稿をメールで拝見するの楽しみです。同感、新発見、色々でした。細くても長く続けるのが私の信条、好奇心忘れず勉強していきたいと思います。

23 期 長田由美子

サポーターになっての1年目、サポーターの定例会、サポーターズサロンなどの催しに何回か参加させていただきました。色々な人の話を聞かせていただいて、クラシックなどの舞台芸術への新たな見方が広がったと思います。

上原元館長と山中館長の講演、牧野優びわ湖ホール舞台技術部長、演出家岩田達宗さんの講義を聞かせていただきました。上原元館長と山中館長の体験談はとても興味深かったです。牧野部長のドン・ジョバンニ制作現場の話や岩田さんのマイクを使わないオペラノ苦勞話など、いろいろ勉強させていただきました。

ハルモニアの編集作業、大半はほかの方に任せて、少しだけ手伝うという感じでした。編集作業中にびわ湖ホールでの公演が話題になることもあり、そこでいろいろ話ができ、楽しませていただきました。

広報のほうは、自分の親は何回か連れてきたのですが、周りには舞台を見るという発想の人が少なく、苦戦していますが、少しずつ広げていければと思います。

最後に、びわ湖クラシック音楽祭のボランティア、サポーターの立場なので少しでも参加できればと思ったのですが、平成30年も、31年も聴きたい公演ばかりあって参加できそうにありません。

23期 西見昭二 劇場サポーターになって広がった世界!!

今年は頑張って活動しようと思っていましたが、結局リ克雷ションの打ち合わせすら参加出来ませんでした。でも今回応募したおかげで今までにない趣味の世界を体験できました。

いろいろな公演の情報をもらいましたので、まずは聴きに行こうと思いました。多くの公演を聴きに行くためには、少しでも安くと考えましたので、びわこホール友の会に加入しました。その後の公演の参加状況を下記しますと・・・

今まで見たことのない「バレエ」「オペラ」「古典演劇」を見たいと思いましたのと、それに関する「講義」を聞いて本番に臨みたいと考えました。

バレエ「眠れる森の美女」オペラ「トスカ」「ドンジョバンニ」「魔笛」野村万作さんの「狂言」、その前の講義（お名前を失念しました）、もともと興味があった、吹奏楽も聴きに行きました。中でも四大学のジョイントコンサートでアンケートに答えましたら抽選で龍谷大学の吹奏楽団の演奏会を聴きに行けたことは感動ものでした。SAXの4人、4大テノールなども聴きに行きました。今までの人生の中で行ったことのないステージに足を向けることが出来たのは「びわこホールサポーター」に参加したおかげだと思います。

また、自分でもやってみたいと考えるようになって、SAXの教室に参加するようになったのと、男性合唱団と混声合唱団に参加するようになりました。

背中を押していただいて本当に感謝しております。一方で、会員としての活動は、ただただチラシを職場で回覧するぐらいしかしていなかったことを反省しております。

今年は職場を定年になることをきっかけにして本活動や今の合唱団での活動を頑張りたいと考えております。

今年1年、大変お世話になりました。また、各部会の世話役の方々にも大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

びわ湖ホール劇場サポーターの一年生

第23期 松田 左江子

昨年四月から、劇場サポーターとして仲間に入れていただきましたがまだよくわからないまま二年生に進級することになります。楽しいとか面白いはもちろん、でも、思っていたことと少し違うな…と感じることもありました。話題のほとんどはやはり音楽で、自分は元々あまり音楽には詳しくないため存在の仕方がわからないこともありました。そんななかで、『ハルモニア』チームの一員として原稿の打ち合わせや校正作業に参加し、また、第四十一号ではバレエの記事を書かせていただきました。その後も原稿の依頼を頂いたり、自分の好きなジャンルでも活動できる場を作ってくださる先輩方に感謝しています。しかし、昨年の秋以降は私事による多忙から集まりにもなかなか参加できず、申し訳ない思いです。サポーターとして継続の有無も考えました。それでも、こちらで得たご縁を大切にしたい、この先の自分の環境が変わりまた色々な場に参加できることを願って、そして自分が表現できることを少しでも活かしていくことができればいいな、と思っています。

一年を終えて 二十三期 吉田 環

知人の話で、サボータの存在を知り、早速参加。日頃の生活でコミニセーター、体操鏡を利用しており三ヶ所に衣報誌を置かせておきます。定期的に見て頂いているのが、心配でしたが、持って行かれて少なくなっているとは少し嬉しくなりパンフレットの内容で誌が盛りあがり正しく今までと違う新しい知人が増えて感激することもあります。

総経として近を運んでいる事が確案はわかると、案もあります。コミニセーターの誌題が、身近にあるので、音楽会が、中心になつていられるかと考えています。

オペラに際しても、少数ながら、誌に出る事もあります。なか湖ホールの存在が、少し身近に感じる人が、少なからずと考える事が、あります。

多くの人が、身近なホールの思える様子を衣報に徹力ながら運動を続けたいと考えています。

平成30年度「びわ湖ホール劇場サポーター」研修の概要

◎ 劇場サポーター舞台芸術基礎講座（全サポーター対象）

○ 第1回 基礎講座

日 時 平成30年5月26日(土) 14:00～15:30

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：2018年度の自主事業ラインナップ紹介

講 師：初 田 靖（びわ湖ホール広報マーケティング部 PR ディレクター）

内 容：新規サポーターに向けて、友人・知人にPRする際のポイントを説明。
年間プログラムを手に取りながら、ラインナップを紹介。

○ 第2回 基礎講座

日 時：平成30年10月13日(土) 14:00～15:30

場 所：びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：オペラの舞台監督の仕事 Ver.2

講 師：牧 野 優（びわ湖ホール舞台技術部長）

内 容：「舞台監督の仕事とは」という基礎の話から、上演したばかりの自主製作オペラの裏側、
そして3ヶ月後に上演するオペラ『森は生きている』について説明。

◎ 劇場サポーター舞台芸術特別講座（全サポーター対象）

○ 第1回 特別講座

日 時 平成30年7月16日(月・祝) 14:00～15:30

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：これまでの20年、これからの20年

講 師：上 原 恵 美（2代目館長）& 山 中 隆（現館長）

内 容：びわ湖が歩んできた20年を振り返り、またこれからの20年の夢・展望などを劇場サポーター
と共有。

○ 第2回 特別講座

日 時：平成31年1月13日(日) 10:00～11:30

場 所：びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：演出家が思う本物の劇場とは

講 師：岩 田 達 宗（オペラ演出家）

内 容：講師本人とびわ湖ホールとの関わり、オペラやジルヴェスター・コンサートでの演出の話、
また「劇場にとって大切なもの」を説明。

◎ 劇場サポーターオペラ稽古見学会（全サポーター対象）

○ 歌劇『ドン・ジョヴァンニ』稽古見学会

日 時 平成30年9月10日(月) 14:00～

場 所 びわ湖ホール 中ホール

◎ 公演関連講座（直近3期のサポーター対象）

びわ湖ホールで開催する主催公演をより一層お楽しみいただくとともに、周囲の方々へ積極的に公演のPRをしていただけるよう公演関連講座研修を実施。

- オペラ・バレエ・古典芸能～初心者向けトライアングル講座「バレエ編」 平成30年4月28日(出)
- オペラ・バレエ・古典芸能～初心者向けトライアングル講座「オペラ編」 平成30年6月10日(日)
- オペラ・バレエ・古典芸能～初心者向けトライアングル講座「古典芸能編」 平成30年9月1日(出)
- オペラ講座『ジークフリート』（全2回）平成30年12月22日(出)、平成31年1月27日(日)
- ワグナー・ゼミナール（上級編・全3回）平成31年2月2日(出)、2月17日(日)、2月23日(出)

◎ 劇場サポーターメーリングリスト

びわ湖ホールからの事務連絡や自主交流会の案内、公演や講座の感想などの発信に用いています。



(5月26日 第1回基礎講座の様子)



5月4日
「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」ボランティア

平成30年度「びわ湖ホール劇場サポーター」自主活動の概要

1. 定例会の開催

- (1) 4月 7日(土) オリエンテーション
(自主交流会紹介/年間計画紹介 ほか)
- (2) 6月 3日(日) 第1回定例会
- (3) 7月 8日(日) 第2回定例会
- (4) 9月24日(月・祝) 第3回定例会
- (5) 10月28日(日) 第4回定例会
- (6) 12月16日(日) 第5回定例会
- (7) 1月26日(土) 第6回定例会

2. サポーター通信「Harmonia (ハルモニア)」の発行

- (1) 4月 第40号(2018年春号)
(近江の春 びわ湖クラシック音楽祭の楽しみ方、公演鑑賞記、館長インタビュー ほか)
- (2) 7月 自己紹介号
(声楽アンサンブル新メンバー、23期サポーター自己紹介 ほか)
- (3) 10月 第41号(2018年秋号)
(特別講座/びわ湖ホール開館20周年特別企画「これまでの20年、これからの20年」 ほか)

※ サポーター通信「Harmonia (ハルモニア)」…

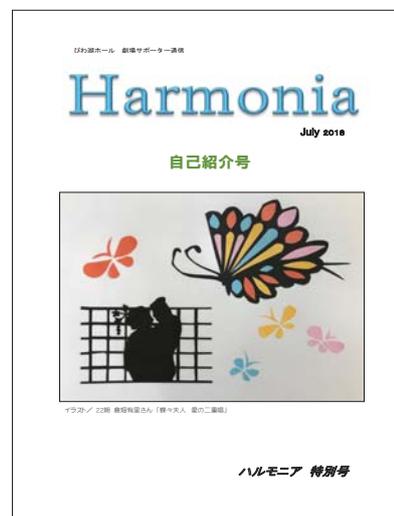
サポーター同士のコミュニケーションを図り、びわ湖ホールをはじめとする、あらゆる舞台芸術の面白さを外部に向けて発信することを目的とした「サポーター通信」。1998年10月から1999年6月までに創刊準備号として3号を、2000年には名称を“Harmonia”(ハルモニア)として創刊号～第39号を発行しています。

3. レクリエーションの実施

- (1) 6月22日(金) 名曲喫茶店でレコード鑑賞
- (2) 7月8日(日) サマーパーティー
- (3) 8月7日(火) 佐川美術館「田中一村展」
- (4) 10月14日(日) 秋のハイキング「三上山(近江富士)登山」
- (5) 11月9日(金) 美術館めぐり
- (6) 11月24日(土) 大山崎紅葉狩り
- (7) 12月16日(日) クリスマスパティー
- (8) 2月16日(土) 京都伏見町歩き

4. その他

- 近江の春 びわ湖クラシック音楽祭へのボランティア参加。
- 劇場サポーター交流会主催「わいわい！コンサート」〔8月19日(日)〕開催



(サポーター通信「ハルモニア」自己紹介号)



(8月19日 わいわい！コンサートの様子)

平成30年度「びわ湖ホール劇場サポーター」運営要綱

1. 趣 旨

地域や職場、友人など、人のネットワークを活かして、びわ湖ホールとそこで上演される舞台芸術を生活に身近なものと感じる愛好者の輪を広げることを目的に、「びわ湖ホール劇場サポーター」（以下「劇場サポーター」という）を設置します。

2. 劇場サポーターの役割

- 舞台芸術についての情報およびびわ湖ホールで開催する公演の情報を、口コミやチラシ配布などにより地域や職場の方、ご友人に広く伝え、観客創造につなげていただきます。
- 舞台芸術に関する講座や研修を受講し、知識を広め関心を高めていただきます。
- 勉強会や交流会などの自主活動を通じて、ネットワークづくりを進めていただきます。
- 公演運営のお手伝いをお願いすることがあります。

3. 劇場サポーターの定員と登録

公募により選ばれた方を劇場サポーターとして登録し、定員は概ね100人、登録期間は1年間とします。ただし、1年ごとに継続の意思確認を行いますので、希望される場合は更新することができます。継続の意思確認は2月～3月頃に行います。

4. 平成30年度活動

- (1) 舞台芸術情報やびわ湖ホールにおける公演情報の地域や職場、友人等への広報
 - ・ 口コミやチラシ配布などによるPR活動
- (2) 舞台芸術に関する研修の受講
 - ・ 基礎講座
 - ・ 特別講座
 - ・ 公演関連講座
- (3) 自主活動
 - ・ 交流会などの開催
 - ・ 劇場サポーター通信（Harmonia）の発行

平成30年度「びわ湖ホール劇場サポーター」の内訳

【期 別】

1期	2名
3期	4名
4期	1名
5期	1名
6期	5名
7期	2名
8期	3名
9期	4名
10期	3名
11期	2名
12期	5名
13期	5名
14期	3名
15期	5名
16期	3名
17期	7名
18期	8名
19期	3名
20期	3名
21期	9名
22期	11名
23期	23名

【性 別】

男性	51名
女性	61名

【居住地】

●滋賀県	
大津市	52名
草津市	4名
守山市	3名
東近江市	4名
彦根市	3名
米原市	1名
長浜市	2名
高島市	1名
湖南市	1名
近江八幡市	1名
●京都府 17名	
●大阪府 11名	
●兵庫県 3名	
●奈良県 3名	
●香川県 1名	
●愛知県 3名	
●岐阜県 2名	

計 112名

発行 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

発行年月 平成 31 年 3 月

〒520-0806 大津市打出浜 15-1

TEL 077-523-7133 FAX 077-523-7147

URL <https://www.biwako-hall.or.jp/>